



日新火災と数理学研究院の共同研究がスタート

概要

日新火災海上保険株式会社と九州大学大学院数理学研究院は、保険実務に対する新しい要求に応える数理モデルの研究を目的とする共同研究「日新火災プログラム」（研究代表者：大学院数理学研究院数理科学部門 教授 谷口 説男）を平成 20 年 4 月よりスタートさせました。本共同研究は、最長 5 年間の共同研究で数理学研究院の推進する産業技術数理共同教育研究プロジェクトの一環であり、研究にとどまらず両者の若手研究人材の教育と育成もその目的としています。

背景

大学院数理学研究院は、統計学、計算機数学、最適化理論などに携わる研究者を多く擁し、多年にわたり応用数学を視野に入れた数学の教育研究を推し進めてまいりました。特に、平成 18 年に大学院博士後期課程に機能数理学コースを設置し、産業技術数理を志向する数理科学研究者の養成に、わが国で初めてとなる組織的な取り組みを始めました。

機能数理学コース修了要件の重要課題として、企業への 3 ヶ月以上の長期インターンシップを設定し、平成 19 年 7 月に、日新火災海上保険株式会社は、金融機関としてはじめて、長期インターンシップ学生を受け入れました。これを契機に、保険業務における数学の有用性が再確認され、保険会社と数学研究機関のわが国初の直接的な本共同研究へとつながりました。また、本年が日新火災海上保険株式会社創立 100 周年となることも本共同研究の契機となりました。

内容

保険業界には、平成 23 年を目処に国際化(国際会計基準)や新しい経営健全さを示す指標(ソルベンシー・マージン)が導入されようとしています。これらの動きに対応しうる新しい保険実務に対応できる高度な数理技術の素養を持つ人材を育成し、数理モデルを開発することがこの共同研究の目的です。

本共同研究では、学術研究員 2 名に加え、大学院博士課程学生 2 名をリサーチアシスタントに雇用し、共同研究にあたります。保険会社の扱う保険金、支払い件数に関する数理モデルを開発、それらの新たな推計方法の導入、保険会社のキャッシュフローのモデル化、さらに保険会社の抱えるリスク度合いの計測法の開発などについて共同で研究します。

効果

まず挙げるべき効果は、保険業界が必要とする数理科学的素養を持つ人材と新しい数理モデルを供給する素地を本共同研究が創り出すことです。産業技術というと製造業に目がいきがちですが、本共同研究のような非製造業企業との共同研究の推進は、数学の非製造業への新たな直接的な浸透・拡散を促す効果が期待できます。さらに、数理学研究院の掲げる産業技術数理の展開という理念が、共同研究という具体的な例を通じて、本学博士課程学生は言うに及ばず他大学大学院生たちにも鮮明なイメージを伴って伝わるはずで

■今後の展開

本共同研究は、他の金融機関、非製造業企業との共同研究への端緒となるものです。この活動を範として、アクチュアリ、経済研究者などの仲介を経ない直接的な数学研究機関と非製造業企業との共同研究がさらに数多く推し進められることと思われます。

※ 本件については、別途日新火災海上保険株式会社より日銀金融記者クラブに対してリリースされています。

【お問い合わせ】

九州大学大学院数理学研究院教授 谷口 説男

電話：092-642-2785

FAX：092-642-2789

Mail：taniguch@math.kyushu-u.ac.jp